



日刊動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

96.11.1 No. 4492

安保・沖縄闘争のつねりを!

沖縄と未来のための千葉県集会南かれる

(10/27千葉市民会館)

一〇月二七日、千葉市民会館において「沖縄と未来のための千葉県集会」が一四〇名の参加で行なわれた。集会は、動労千葉がよびかけ、沖縄県人会や労組、各市議会議員等の上びかけ人で結成された集会実行委員会によって、ひろく賛同を集め、開催された。

会が開会し、同県人会の佐々木守雄さんが主催者を代表してあいさつを行なった。三里塚反対同盟・北原敏治氏、水野正美勝浦市議、笹間テツ前八千代市議、足立満智子成田市議の各氏からあいさつが行なわれた。

古出身の仲本光正さんによる歌と三線(サンシン)のアトラクションが行なわれた。参加者も一体となってカチャーシーを踊り、にぎやかに盛り上がったところで、沖縄反戦地主会会長の照屋秀伝氏が登壇、沖縄からの闘いの報告が行なわれた。

照屋氏は冒頭、九・八県民投票への本土からのさまざまな激励をお礼を述べるとともに、沖縄の青年たちが立ち上がったことが闘いの大きなうねりをつくりだしていることを報告した。また「来年から始まる収用委員会の公開審理を全国的大闘争にし、来年五月は三千人の土地の使用期限切れに国を追い込もう。ここまでできたら『沖縄を平和の島に』と言うだけでは小さい。みんなで日本を変えよう。アジアの人たちに喜ばれる日本にしよう」と訴え、最後に「一〇集会への参加をよびかけた。特別アピールとして、破防法

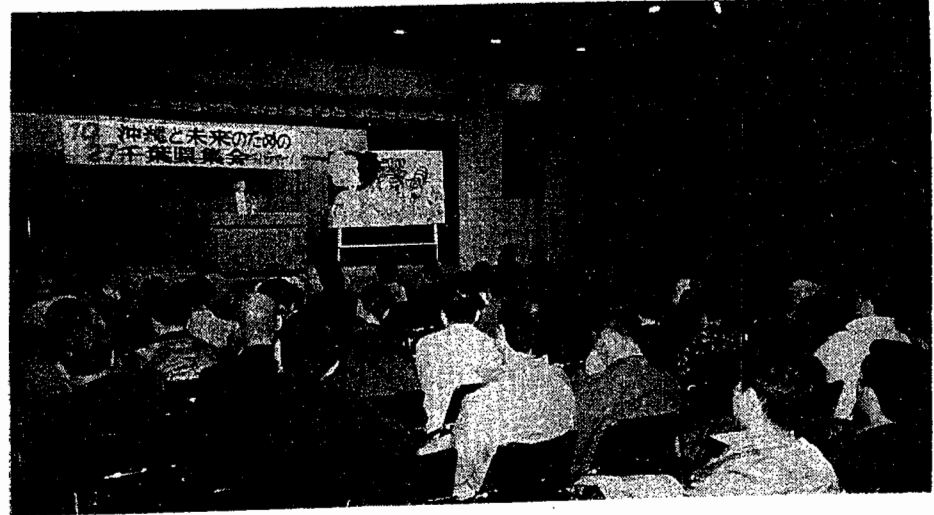


日本基督教団 小田原 紀雄氏

反対の訴え、国鉄労働者の闘いの報告、一一・一〇集会へのよびかけが行なわれ、日本基督教団破防法反対意見広告事務局・小田原紀雄氏は、最初に安保再定義問題について厳しく言及し、「沖縄闘争にも破防法が適用されようとしている。労働者・市民が一体となって立ち上がることで破防法を打ち破る力」と訴えた。また動労千葉からは田中書記長が「今こそ六〇年、七〇年につぐ安保・沖縄闘争をつくりあげよう。一一・一〇集会へ集まろう」とよびかけた。さらに会場からは、命どう宝ネットワーク、沖縄民権の会や、高教組、鉄鋼、国労、自治労などの労働者から活発な発言が行なわれ、熱気にあふれた。最後に沖縄県人会の金城邦雄氏の「さらなる沖縄闘争の発展を」という閉会のことばを参加者一同が確認し、幕を閉じた。

第三次安保・沖縄闘争の高揚をつくりあげよう。一一・一〇へ総決起しよう!

どちらにも総決起!



▲ 熱心に話に聞き入る参加者たち



▼ たちまち会場をわかせた三線



▲ 反戦地主会会長 照屋 秀伝氏
「戦争で母も弟も亡くした。戦争のために土地を使うことは、絶対にできません。」

00/03 (日)
団結運動会

96 本町公園

11/10 (日)

全国労働者総決起集会

日比谷野音

第1陣 千葉 10:34 快速
第2陣 千葉 12:49 快速